

# 上越市は市営住宅条例の改正で独自基準つくらず 「地域主権改革」が言われるなか、市は市民の声聴く必要なしと判断

3日から12月定例議会が始まりました。初日は市長の提案理由の説明の後、総括質疑が行われ、私は日本共産党議員団を代表して質疑を行いました。とり上げたのは、市営住宅条例の一部改正、指定管理者制度の見直しに伴う条例の一部改正、指定管理者の指定、そして今年度一般会計補正予算です。

このうち、市営住宅条例の一部改正は昨年成立した地域主権改革一括法による一連の条例改正議案の一つでした。整備基準や入居基準については、これまで国が決めて、自治体に義務付けをしていきましたが、これからは市が条例制定などにより、独自の基準作りもできることから、パブリックコメントなどで市民の声を聴くべきではなかったか、独自基準の検討はしたかなどを質問しました。



これに対して村山市長、小林都市整備部長は、「パブコメについては条例に照らして該当しないとの判断をした」「これまでと内容は変わらぬのでパブコメの対象としなかった」などと答えました。また、整備基準については、「参酌すべき

国土交通省令を準用することとした」とし、入居基準についても、「同一地域内に市営、県営住宅が併設されており両公営住宅の入居手続きなど管理を当市が一括して行っていることから、県営住宅の収入基準額との整合を図り、県と同様に旧基準で収入基準を設定することとした」と答えました。

新潟県は県営住宅条例の一部改正案についてパブリックコメントの手続きに入るといわれています。全国の自治体の中には独自の基準づくり作業に入り、中山間地対策や若者支援などを考えているところもあります。それに比べて上越市は地域主権をどう実現していくかという意識が弱いなと思いました。

## 持株会社に参加予定の第三セクター関連施設は1年間の随意指定

温浴施設を経営する第三セクターが指定管理者となつている施設については持株会社設立の動きがある中で、「平成25年度の指定管理は一律1年間の随意指定を継続することを方針化」しています。いつの時点で、どういう理由でこの方針を決めたのかを市長に問いました。

平成22年3月に、「第三セクター経営検討委員会」が「上越市第三セクター経営分析報告書」を提出し、その中で、「第三セクターが管理する公の施設については、指定管理者の公募は行わず、随意指定により第三セクターを指定管理者として選定すべき」としています。市長は、この「報告書の提言を踏まえ、暫定的に来年4月から1年間の随意指定を行うこととした」と答えていました。



## 1日に2度も出動した地域も

2日は市内各地で除雪車が出動しました。この日は、吉川区、浦川原区、牧区、清里区、板倉区とまわりましたが、牧区の大月、板倉区の久々野の積雪が多かったですね。1日に2度も除雪車が出動した地域もあります。写真は牧区東松ノ木で出合った除雪車。



まるで人腿の下半身のような大根。大島区旭地区でとれたものか。写真は同区大平在住の赤ちゃんです。

なお、持株会社への不参加を表明している一部の第三セクターについても、1年間の随意指定を行うこととしていたので、その先はどうするかと尋ねたら、「1年後に再度、指定管理の更新期を迎えることから、その段階において改めて持株会社への参加について意向を確認する必要があります。あわせてその趣旨である将来の自立に向けた展望を質(ただ)す中で、状況によっては公募による対応を検討することもあり得る」とのべました。おどかしとも受け取れる回答にはびっくりでした。テレビを見ていた市民からは、「これで『市民がど真ん中』なんではないか」という声も寄せられています。

原発に依存しない経済をどう再生していくかをテーマにしたフォーラムでのこと、会場に「そう、そう」というつぶやきとともに、ふわーっとした温かい空気が広がったのはぶり大根などの食べ物が出たときでした。

京都大学の岡田知弘先生が、「オールシーズンで柏崎の良さを体験してもらうために、海の幸、山の幸を結合したぶり大根とか鯛茶漬けなどをもっと売り出していこう」という動きが出てきている」と紹介された時、聴衆のみなさんは自分たちが食べたことのあるぶり大根や鯛茶漬けのことを一瞬、思い浮かべたのでしよう。私も懐かしさを覚えました。じつは、私にはぶり大根についての忘れ難い思い出があったのです。

いまから四〇年ほど前、私は生まれて初めて酒造りの出稼ぎに出ました。いわゆる「酒屋もん」というものです。場所は東京の八王子市でした。

酒造りについて何も分からない私がそこで最初に与えられた仕事は食事の用意でした。食事の用意というより、オマケのおかずづくり、あるいは酒の肴づくりといった方がいいのかも知れません。近くの鮮魚店へ行き、魚のあらを買ってきてそれを煮ておくこと、それにたくわんを切っておくことぐらいだったのですから。主食のご飯を炊くことやお汁を作る本当の炊事番は別の人がやってくれていました。

この酒屋では、魚のあら料理が長年続いていて、親方のゲンゴさん、頭のミノルさん、蜷場のセイジさんなど出稼ぎをしていた人たち、みんなの好物となっていました。私は毎日のように鮮魚店へ行き、時どき八百屋さんへも立ち寄りしました。あらは値段は覚えていませんが、安く手に入ったことだけはよく記憶しています。

私が手伝ったあら料理の中には、いうまでもなく、ぶり大根もありました。魚のあらだけでも美味かったんですが、魚の味がしみ込んだ大根などの野菜がまたいいものでした。特に大根は、ぶりと融合することによって深みのある味に変わります。寒いなか、朝早くから夕方まで稼いだ体に静かにしみ込んでいきました。

さてフォーラムの翌日のことです。大島区の田麦へ出かけた際、今年初めてのぶり大根と出合いました。

竹林寺の石段を下り、下の道を歩いていたら、マコトさんの車庫の中からいい匂いが漂ってきました。ひよっとしたらと思いつつ、「いい匂いするねえ。うんまそうだね」と声をかけると、道普請を終えたマコトさんやタダマサさんなどがご苦労さん会を始めるところで、「寄ってきない」と誘っていただきました。

真ん中のテーブルの上にはお酒や発泡酒、天ぷら料理、もつ煮、漬けもの、そしてやはり鍋に入ったぶり大根がありました。「いっぱいやんない。泊まっていけばいいねかね」などと言われましたが、その日は必ず帰らなければならず、残念ながら飲むことはできませんでした。

ぶり大根をプラスチックの食器に入れてもらうと、私は他のものには目をくれず、そればかりを食べました。というのも、ぶり大根が美味しい季節に入っているとはいえ、前の日に強く印象に残った食べ物があるのは偶然とは思えなかったのです。不思議な巡り合わせを感じ、ゆっくり味を確かめながらいただきました。

ぶり大根を食べていた時、幼い頃、お盆泊まりで竹林寺のそばの道を通った記憶がよみがえりました。母の実家にもうすぐ着く、そのことを感じた時のうれしさはいまでも覚えています。いい気分にはひたりながら、私はぶり大根のお代わりをしました。

## 介護保険施設などの民間譲渡、廃止方針に驚きの声

上越市が管理する公の施設の再配置計画に基づいて、介護保険施設など30の介護関連施設についても民間への譲渡、あるいは廃止について利用者、地元町内会などへの説明が始まりました。

30施設のうち、吉川区内で検討対象となっているのは「うぐいすの里」「あじさいの家」「ほほ笑よしかわの里」。このうちデイサービスセンター、「うぐいすの里」については2日、総合事務所主催の源地区懇談会で説明されました。

利用者には『あじさいの家』と社会福祉協議会が経営している『いこいの里あさひ』にスムーズに移っていただくようにしたい」と説明しました。

これには参加者もびっくり。参加者からは、「今後、高齢者率が高くなって、施設利用を望む人が多くなる。（吉川区内の）2つの施設だけで対応できるのか。本当に足りるのか心配だ」という声が上がりました。

**上越地域各消防署における空間放射線量測定結果**（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	11月28日(水)	12月5日(水)
上越南消防署	0.036	0.040
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.057	0.047
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.047	0.050
東頸消防署	0.040	0.050
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.046	0.050

「うぐいすの里」は、昨年10月、市が策定した「公の施設の再配置計画」の中で、「行政が担うより民間施設として管理運営する方が市民サービスの向上や効率性が高まると考えられる」として、他の2施設と共に譲渡検討施設の1つになっていました。

この日の懇談会では、八木智学高齢者支援課長が検討状況を報告。このなかで同課長は、「『うぐいすの里』については現在指定管理している社会福祉協議会が譲渡を希望しないということになり、来年3月いっぱい廃止予定

だ。利用者には『あじさいの家』と社会福祉協議会が経営している『いこいの里あさひ』にスムーズに移っていただくようにしたい」と説明しました。これには参加者もびっくり。参加者からは、「今後、高齢者率が高くなって、施設利用を望む人が多くなる。（吉川区内の）2つの施設だけで対応できるのか。本当に足りるのか心配だ」という声が上がりました。八木課長は、「『うぐいすの里』の利用者が区内の2つの施設に移っても、現在の稼働率からみて十分運営は可能だ。将来、（足りなくなった場合は）吉川区から近隣の区の施設に行くこともありうる」「市としては今後、デイサービスセンターを（新たに）造らない方針だ」と答えました。質問された方は、「そういう考え方が市長の言う安全、安心な上越市なのですか」とのべ、不信感をあらわにされていました。